

東北ダンプ



【発行】全日本建設交通一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2

建交労福島ダンプ内

2025年8月1日発行 NO.38

TEL024-933-4511 fax024-921-1868

Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

やれるものならやってみろ！

俺たちは政府、国会、国民の負託を受けてやっている バカにするのもいい加減にしろ！

残土運搬工事をめぐって大手ゼネコン支店と交渉しました。相手が提示した単価は5万円ですが、全国一律5万7千円(税別)は崩せない、57,000円を認めさせました。

現場は工期が遅れているので、1日35台のダンプを50日間動かすという事です。建交労には1日3台のダンプを出して貰いたいと言うので、「優先使用団体に対する敬意が全くない。ダンプ交通安全の根源対策は適正単価で働けるダンプを1台でも増やすことだ。1日3台などバカにするのもいい加減にしてくれ」と断りました。なんぼ譲っても、全体の3割までが建交労の提案だと強調しました。

相手からは、下請がすでに40台のダンプを確保しているというので、どこかの駐車場に40台のダンプが待機・駐車しているなら分かるが、40台のダンプに声をかけただけであり、現場に1台も配車されている訳ではない。下請の集めたダンプが優先使用の対象なら、昭和42年当時、建設業法の改正で済んだはずだ。わざわざ「ダンプ規制法」という新規立法措置を取ったのは、ダンプの単価引き上げ運動を12条団体に付託するためだ。

1日35台のうち3台しか使われないなら、どの様にして政府、国会の負託に応えるのだ。大手ゼネコンが逆立ちしても出来ないことを、建交労は50年間やり続けている。時として、建設業界の意を受けた裏社会からの脅迫などもある。命がけで、夜な夜な戸別訪問をして仲間を増やし、ゼネコンがダンプの単価引き上げをやるというならやってみろ！」と、席を立てて帰って来ました。

それでは、これで決別か、この件は第一巻の終わりかという、そうではありません。当該工事は宮城県発注であり、発注者は村井知事です。県議会が承認した案件であり、議会にも責任があります。知事も議会も「法令遵守」を否定することは出来ません。正面から、知事や議会とやり取りするのが組合専従者の仕事です。

乞う、ご期待！

継続は力なり！…使用促進闘争

宮城県内の使用促進闘争の取り組みをしています。今年度から57,000円に単価を引き上げて交渉しています。国交省宮城県南部復興事務所が発注した工事を請け負ったG工業と合意をして、6月中旬から2名の組合員が就労をしています。現場代理人も丁寧にスムーズに就労していると報告を得ています。

振り返れば4年前、G工業にはじめて申し入れをした時には、訪問しても事務員が出てきて、『誰もいないので、対応できない』と門前払い。『では、担当者から連絡をもらいたい』と伝言をしても、待てど暮らせど連絡は一切なし。そのたびに発注者へ指導を求めること数回、そうこうしているうちに半年が経ってしまいました。

そんな中、夕方訪問した時に意を決して、『社長が戻るまで、玄関で待たせてもらいます』と言うと、誰もいないと言っていたはずなのに、奥から常務と土木部長が出てきて、『話を聞きましょう』ということになりました。応接室に通され、発注者である国交省が指導事項を作った経緯、12条団体の使用促進措置の趣旨を資料をもとに説明すると、納得してくれ合意に至りました。

対応した常務は『申し入れが初めてだったので、建交労がどんな団体かわからなかった。発注者から指導があったので話を聞いてみた』とのこと。G工業はそれ以降、申し入れをすると私たちの要請に応じてくれるようになりました。

あきらめずに継続することの大切さを学びました。



一番の特効薬



桔梗(キキョウ)

晴釣雨読(せいちょうどく)

いよいよ白神山地の山々が萌葱色から深緑に変わり、北東北の河川は7月1日に「鮎釣り」が解禁となり、この日を待ちわびた釣り人達が、長竿を手にな久々の感触を楽しんでいます▼白神山地を流れる河川は、青森県側に大川、暗門川、赤石川、追良瀬川、笹内川があり、秋田県側には粕毛川があり、「金鮎の里」として有名な赤石川に、全国から多くの釣り人達が訪れ、午後5時の解禁時間になると長さ9mを越える長竿を手に、「おとり鮎」を巧みに操り縄張りを守ろうとする野鮎を引つける「友釣り」の感触を楽しんでいます。この日は、先日の雨の影響で釣り始めは低水温の17度ほどで、水量も平常の水位より高かったことも影響し、期待したような釣果が上がらず腕に自慢の太公望達も苦戦に強いられる▼世界自然遺産白神山地を源流とする「赤石川」の上流には花崗岩が多く、その中の成分の一つである黄鉄鉱をアユが吸収し、黄金色に輝いて見えることから赤石川に生息するアユは『金鮎』と呼ばれている。魚体は小ぶりですが引きが強いことから、毎年のアユ釣り解禁日には、県内外からたくさん釣りが訪れる。▼解禁日の赤石川は昨年、一昨年とも釣りが出来ないほどの悪天候でしたが、今年は待望の初日からの釣り日和になったことから、友釣り用のおとり鮎を扱う店からの情報で、前日から車中泊し、釣りしたい思いが高ぶってしまい午前4時に、おとり鮎店の戸をたたいておとり鮎を、買い求めていた名古屋方面からの釣り人の話題がある▼金鮎は食味や香りが優れ、内臓も苦みが少なく、骨が柔らかいので頭から食べられるのが特徴とされています。「金鮎の里」赤石川は青森県の鮎ヶ沢町出身で元大相撲の小結「舞の海秀平」氏のふるさとでもある。一度訪れて「黄金色」の鮎を堪能してはいかがでしょう？



どちらがおいしそうかな？

高橋溪峰

東北ダンプ支部第4回定期大会は

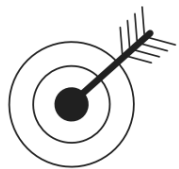
と き 11月8日(土)午後1時～5時

ところ 光雲閣(福島県二本松市岳温泉 1-85)

終了後、団結懇親会を行い、宿泊します。翌朝解散

12時30分集合。代議員制で行いますが、各分会の割り当て人数はあらためて案内します。

(下の写真は、昨年の第3回定期大会での団結がんばろう)



時の的

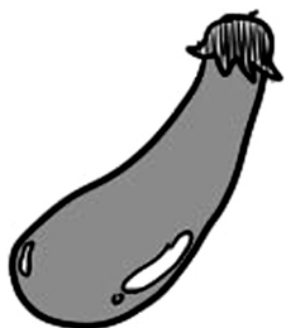
飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」

やなせたかしの言葉に不思議な力

NHK朝の連ドラ「あんぱん」が先日わが家でも話題となった。「アンパンマン」の生みの親、やなせたかしと小松暢の夫婦をモデルとし敗戦後、生きる意味を喪失した苦悩の日々、それでも夢を忘れなかった二人の人生を描く。苦難を乗り越え「逆転しない正義」を体現したアンパンマンにどうたどり着くか楽しみだ。

少し前だが、嵩(北村匠海)が中国・福建省に出征し宣撫班に配属。現地住民への紙芝居のくだりで「俺たちは歓迎されていない。これは本当に東洋平和のための正義の戦争なのだろうか」と自らの立場に疑問を抱く。葛藤が丹念に描かれる。ここらが人気の理由か。

今、やなせたかしの言葉が注目される。よく知られる「手のひらを太陽に」の作詞者でもある。言葉に不思議な力を吹き込み、どう生きるかヒントを教えてくれる。「人生はよろこばせごっこ」「生きているからかなしいんだ」「どんな理由があっても戦争はすべきではない」「本当の正義というものは決してカッコいいものではない」「正義は常に逆転する」



ハンサムで正義ぶるスーパーマンと違うアンパンマンがすごい。ライバルながら悪役ではないばいきんまんの立ち位置も考えさせられる。「悪者はここにいますよ」と叫ぶ「ヒーローズラ」は要らない。奥が深いなあ。今日も1歳の孫娘はアンパンマンを握りしめる。

暮らしの知恵袋

◆熱帯夜はエアコンで快眠

蒸し暑く寝苦しい夏、睡眠不足で夏バテしたり心身に不調が生じたりしませんか。夏の快眠には温度環境が重要です。

人間の深部体温は日中の覚醒時に上昇し、夜間の睡眠時には低下。深部体温が低下し始めると入眠しやすい状態となります。ところが、部屋の温度・湿度が高いと深部体温が下がらず、汗をかいても蒸発しないので眠りにくくなるのです。

寝る前にエアコンで寝室を涼しくしておくことで寝つきがよくなります。扇風機だけでは室温は下がりにくいです。

熱帯夜(夜間の最低気温が 25℃以上)の場合、熟睡するにはエアコンは一晚中つけっぱなしにする方がいいでしょう。タイマーを設定して切れると、暑くて夜中に目が覚めてしまいかねません。設定温度は、個人差がありますが、28℃以下を目安にします。

エアコンをつけっぱなしでは寒く感じる人は、寝る前に低めの温度に設定して就寝時に上げたり、エアコンの風を上向きにしたり、長袖パジャマを着るなどして、体が冷えないようにします。

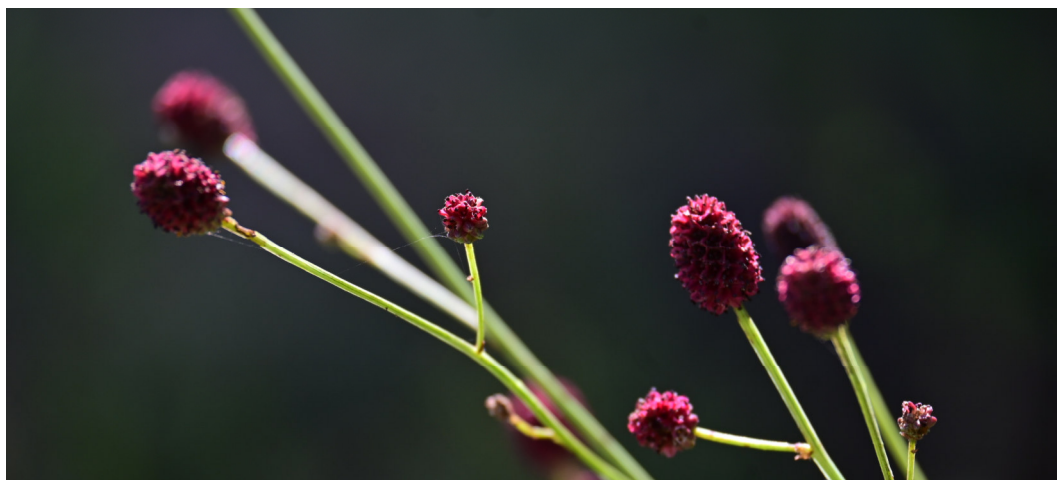
快眠のために他に気を付けたいのは、寝る前は照明を暗めにして、スマートフォンを見ないなど光の曝露を抑制すること。適度な運動習慣や、規則正しい食事(しっかり朝食を摂り、就寝直前の夜食を控える)、就寝前のヨガや入浴、静かな音楽などリラクゼーションも、良好な睡眠を得るために重要です。(参照:厚労省「健康づくりのための睡眠ガイド2023」など)



失敗してもプライドは失わない。それは努力しているからだ

2か月前の話になりますが、すみません。

ミスタープロ野球の長嶋茂雄が6月3日、89歳の生涯を閉じた。♣長嶋選手が現役時代の17年間は、私の小学生から高校生までの12年間とほぼ重なっている。テレビで中継されるナイターの試合は、すべて巨人戦と言ってよいほどブラウン管には、毎晩のように巨人の選手が登場した。だからか巨人ファンが東北地方では多かったのかもしれない。♣私が生の長嶋を見たのは、後にも先にも1回だけある。1972年の春、中学3年の修学旅行は、東京・箱根方面。後楽園球場のアルプススタンドから巨人戦を観戦。豆粒のような長嶋選手を見つけ胸が高鳴った。♣1974年秋、高校2年の時に長嶋は引退をするが、クラスの何人かは授業をさぼって引退間近の長嶋の試合を見に行った。それだけ魅力だったのかもしれない。♣長嶋はいくつもの名言を残している。「巨人軍は永遠に不滅です」(野球への情熱と未来への希望)、「家に帰って風呂に入るまで勝負はわからない」(あきらめない姿勢)、「初めての還暦」(ユーモア)、「失敗してもプライドは失わない。それは努力しているからだ」(人並み以上の努力家)など…。♣天才肌にみられる長嶋だが、実は類いまれな努力の人だった。試合で無安打の夜は、食事も取らずに明け方までバットを振ることもあったらしい。♣打撃はもちろん、野性的な守備がカッコよく、特に三塁ゴロをグラブに収め、一塁に送球する姿は美しかった。江川問題以来、私はアンチ巨人になったが、これから先、長嶋のファンだけは返上しない。 合掌 (喜)



吾亦紅(ワレモコウ)